

幸福度指標（仮称）に関する意見募集について

1. 概要

幸福度に関する研究会は、これから日本が目指すべき国の形と人々の幸福度に寄与するような社会のあり方について調査研究を行っています。このような新しい成長や幸福度に寄与する経済社会システムに現実社会がなっているか、その進展状況をチェックし、政策などを見直していくことは重要です。そのための一つの手法として世界各国で検討がされているのが、指標に基づく評価です。しかし、数値などで評価することは難しいことでもあります。

この指標化に当たっては、上記の通り、そもそもどのような社会を目指すのかという議論から出発しなければなりません。そこで是非、国民の皆様のお考えを広くお聞きし、検討を進めていきたいと考えています。本アンケート調査にご協力頂き、議論に参画して頂ければと考えております。

2. 意見の提出方法

電子メール、ファックス又は郵送のいずれかの方法で次の事項を記入の上、提出してください。（電話による御意見の提出は御遠慮下さい）。

【記入事項】

幸福度指標についての意見の募集等

【宛先】

政策統括官（経済社会システム担当）付参事官（総括担当） 宛

【提出方法】

○内閣府ホームページから投稿する場合：「幸福度に関する研究会」の「意見募集」の意見送信フォームを活用して送信。

<http://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/ikenbosyuu/ikenbosyuu.html>

○ファックスの場合：03-3581-0953 に送付。

○郵送の場合：〒100-8970 東京都千代田区霞ヶ関 3-1-1 に郵送。

なお、ファックスでお送りいただく場合には、表題を「幸福度指標についての意見の募集」としていただきますよう、また郵送の場合は、封筒表面に同じく朱書きいただきますようお願いいたします。

【意見提出期間】 平成 23 年 1 月 21 日（金）～平成 23 年 3 月 31 日（木）中

【提出上の注意】

○お寄せいただいた御意見・情報に対して個別に回答はいたしかねます。

○お寄せいただいた御意見については、個人を特定しない形で公開させていただく可能性がありますので、その旨御了承願います。

(意見提出様式)

I. 目指すべき国の形

問1 日本は今後、以下のうち、どのようなことを社会の目標にしていくべきだと思いますか。特にあてはまると思われるものを5つまで選んで○を付けてください。

- 1 国内総生産(GDP)、所得の多い社会
- 2 仕事の充実感が高い社会
- 3 環境にやさしい生き方ができる社会
- 4 幸せを感じている人が多い社会
- 5 生活満足度の高い人が多い社会
- 6 心のゆとりがある人が多い社会
- 7 他人への思いやりがある人が多い社会
- 8 すべての者に居場所と出番のある社会
- 9 生き心地の良い社会
- 10 この国に暮らせてよかったと思える社会
- 11 安全・安心に暮らせる社会
- 12 自由に発言が出来る社会

問2 問1の社会の目標を達成する上でどのような分野を重視すべきだと考えますか。特に重視すべきと思われるものを5つまで選んで○を付けてください。

- 1 家計の状況(所得・消費)
- 2 就業状況(仕事の有無・安定)
- 3 健康状況
- 4 自由な時間
- 5 充実した余暇
- 6 仕事の充実度
- 7 精神的なゆとり
- 8 趣味、社会貢献などの生きがい
- 9 家族関係
- 10 友人関係
- 11 職場の人間関係
- 12 地域コミュニティーとの関係

Ⅱ. 重視すべき指標化の分野

問 3 幸福を指標化するときに重要であると思われることを次の中から5つまで選んで○を付けてください。

- 1 所得と富
- 2 貧困の状況
- 3 失業の状況
- 4 教育や職業訓練
- 5 仕事の満足度や経済的安定
- 6 余暇
- 7 起業のしやすさ
- 8 居住環境
- 9 子育てのしやすさ
- 10 犯罪の被害の少なさ
- 11 政治的活動への参加
- 12 司法への信頼
- 13 行政への信頼
- 14 国際競争力
- 15 経済の開放度
- 16 余命
- 17 健康余命(不健康な期間を除く余命)
- 18 身体的健康
- 19 心の健康
- 20 自尊心(自分の人生への評価・自信など)
- 21 医療サービスへのアクセス
- 22 人と一緒に行う活動(文化、スポーツ活動など)
- 23 人のために行う活動(ボランティアなど)
- 24 サポートしてくれる人の存在
- 25 他人への信頼感
- 26 地域活動の活発さ
- 27 家族との関係
- 28 地球環境の持続可能性
- 29 財政の持続可能性

Ⅲ. 指標の利用方法

問 4 幸福を指標化する際に、利用方法により使用できる指標に限りがあります。最も重要だと考える利用方法を1つ選んで○を付けてください。

- 1 国全体の水準を計測し、国際比較し、我が国の課題や特徴を捉える。
- 2 地域別に水準を計測し、地域間における格差や地域の特徴を捉える。
- 3 様々な社会階層や個人属性別に水準を計測し、社会階層、個人属性ごとの格差や特徴を捉える。
- 4 過去と比較し、経済社会の進歩を捉える。
- 5 現状を踏まえた上で、将来への展望を捉える。

Ⅳ. ここからは、調査を統計的に分析するために、あなたご自身やあなたのご家族についてお伺いします。

F1 あなたの性別を選んで○を付けてください。

- 1 男性
- 2 女性

F2 あなたの満年齢を入力してください。

満 歳

F3 いま一緒に暮らしているご家族についてお伺いします。次のどちらにあたりますか。あてはまるものを選んで○を付けてください。

- 1 単身である
- 2 同居の家族がいる

F4 F3 で「同居の家族がいる」を選択した方のみお答えください。同居の家族の構成員を選んで○を付けてください。

- 1 配偶者、または、パートナー
- 2 こども
- 3 親
- 4 兄弟姉妹
- 5 それ以外の親族
- 6 親族以外(ルームメイトなど)

F5 お子様(同居・別居を問わず)がいらっしゃる方にお伺いします。次の中からあてはまる人数を選んで○を付けてください。

- 1 20歳以上の子どもが1人いる。
- 2 20歳以上の子どもが2人いる。
- 3 20歳以上の子どもが3人以上いる。
- 4 15歳以上20歳未満の子どもが1人いる。
- 5 15歳以上20歳未満の子どもが2人いる。
- 6 15歳以上20歳未満の子どもが3人以上いる。
- 7 小学生又は中学生の子どもが1人いる。
- 8 小学生又は中学生の子どもが2人いる。
- 9 小学生又は中学生の子どもが3人以上いる。
- 10 未就学の子どもが1人いる。
- 11 未就学の子どもが2人いる。
- 12 未就学の子どもが3人以上いる。

F6 あなたの職業についてお答えください。あてはまるものを1つ選んで○を付けてください。

- 1 会社員(公務員を除く)で管理職以外
- 2 会社員(公務員を除く)で管理職
- 3 会社の役員
- 4 団体職員や団体の役員
- 5 公務員
- 6 自営業(農林漁業、商工サービス業、自由業などを含む)
- 7 派遣・パート・アルバイト
- 8 専業の主婦・主夫
- 9 学生
- 10 無職(専業の主婦・主夫を除く)

F7-1 現在のあなたの状況について、次の中からあてはまるものがあれば、選んで○を付けてください。

- 1 失業中
- 2 病気療養中
- 3 介護中
- 4 産休・子育て休暇中

F7-2 現在のあなたのご家族の状況について、次の中からあてはまるものがあれば、選んで○を付けてください。

- 1 失業中
- 2 病気療養中
- 3 介護中
- 4 産休・子育て休暇中